

勝率0.567は何勝何敗？

—近似値から正確な情報を効率よく得る方法—

関川研究室

問題

勝率0.567は何勝何敗？ただし、引き分けはないとする。

簡単？

- $0.567 = \frac{567}{1000}$ だから、**567勝433敗**.
- (567×2) 勝 (433×2) 敗, (567×3) 勝 (433×3) 敗, ... も答.

ほかにも答がある？

m 勝 n 敗が答とする。
 $\frac{m}{m+n}$ の**小数第4位を四捨五入**して0.567になってもよい。
 $0.5665 \leq \frac{m}{m+n} < 0.5675$ (♠)

解法1 (すべての m を調べる)

(♠)は以下と同値 ($0 < m+n$ に注意)。
 $\frac{m}{0.5675} < m+n \leq \frac{m}{0.5665}$ (♡)
 $m = 1, 2, 3, \dots$ に対し, (♡)を満たす自然数 $m+n$ が存在するか否かを確認。

表1: 勝率0.567に対する計算過程

m	$\frac{m}{0.5675}$	$\frac{m}{0.5665}$	(♡)を満たす自然数 $m+n$
1	1.762...	1.765...	なし
2	3.524...	3.530...	なし
3	5.286...	5.295...	なし
4	7.048...	7.060...	なし
5	8.810...	8.826...	なし
6	10.572...	10.591...	なし
7	12.334...	12.356...	なし
8	14.096...	14.121...	なし
9	15.859...	15.887...	なし
10	17.621...	17.652...	なし
11	19.383...	19.417...	なし
12	21.145...	21.182...	なし
13	22.907...	22.947...	なし
14	24.669...	24.713...	なし
15	26.431...	26.478...	なし
16	28.193...	28.243...	なし
17	29.955...	30.008...	30

⇒ **勝数が最小の答は17勝13敗** ($\frac{17}{30} = 0.5666\dots$)。

計算の手間

一つの m に対して必要な計算の回数を数える。
 ● 除算2回。
 ● (♡)を満たす自然数が存在するか否かの確認1回。
 ⇒ M 勝 N 敗が答なら**除算と確認の合計は3M回**。
【注意】勝率が5割超のときは「敗率」から計算する方が早い。

もっと効率のよい方法はないか？

分数のある性質

分数の対 $\frac{a_1}{b_1}$ と $\frac{a_2}{b_2}$ が条件

$$\left. \begin{array}{l} \frac{a_1}{b_1} \text{ と } \frac{a_2}{b_2} \text{ は分母が正の既約分数} \\ \frac{a_1}{b_1} < \frac{a_2}{b_2}, \quad a_2 b_1 - a_1 b_2 = 1 \end{array} \right\} (\diamond)$$

を満たすとき, 以下が成り立つ。

- $\frac{a_1}{b_1} < \frac{p}{q} < \frac{a_2}{b_2}$ を満たす分母が正の分数 $\frac{p}{q}$ の中で, $\frac{p}{q} = \frac{a_1 + a_2}{b_1 + b_2}$ は分母が最小 (よって既約)。
- $\frac{a_1}{b_1}$ と $\frac{a_1 + a_2}{b_1 + b_2}$ の対, $\frac{a_1 + a_2}{b_1 + b_2}$ と $\frac{a_2}{b_2}$ の対は, ともに条件(◇)を満たす。

解法2 (分数の性質を利用)

上の性質を利用して(♠)を満たす既約分数 $\frac{m}{m+n}$ を探す。
 $\frac{0}{1} < 0.5665 < 0.5675 < \frac{1}{1}$ からスタート ($\frac{0}{1}$ と $\frac{1}{1}$ の対は(◇)を満たす)。

- | | |
|---|---|
| (1) $\frac{0+1}{1+1} = \frac{1}{2} = 0.5$ | ⇒ $\frac{1}{2} < 0.5665 < 0.5675 < \frac{1}{1}$ |
| (2) $\frac{1+1}{2+1} = \frac{2}{3} = 0.666\dots$ | ⇒ $\frac{1}{2} < 0.5665 < 0.5675 < \frac{2}{3}$ |
| (3) $\frac{1+2}{2+3} = \frac{3}{5} = 0.6$ | ⇒ $\frac{1}{2} < 0.5665 < 0.5675 < \frac{3}{5}$ |
| (4) $\frac{1+3}{2+5} = \frac{4}{7} = 0.571\dots$ | ⇒ $\frac{1}{2} < 0.5665 < 0.5675 < \frac{4}{7}$ |
| (5) $\frac{1+4}{2+7} = \frac{5}{9} = 0.555\dots$ | ⇒ $\frac{5}{9} < 0.5665 < 0.5675 < \frac{4}{7}$ |
| (6) $\frac{5+4}{9+7} = \frac{9}{16} = 0.5625$ | ⇒ $\frac{9}{16} < 0.5665 < 0.5675 < \frac{4}{7}$ |
| (7) $\frac{9+4}{16+7} = \frac{13}{23} = 0.5652\dots$ | ⇒ $\frac{13}{23} < 0.5665 < 0.5675 < \frac{4}{7}$ |
| (8) $\frac{13+4}{23+7} = \frac{17}{30} = 0.5666\dots$ | ⇒ $0.5665 < \frac{17}{30} < 0.5675$ |

⇒ **試合数が最小の答は17勝13敗**。

計算の手間

分数を一つ作り, 答か否か確認するのに必要な計算の回数を数える。
 ● 分数を作る計算に加算2回。
 ● 答か否かの確認に除算1回と高々2回の大小比較。
 ⇒ K 番目の分数が答なら**加算, 除算, 大小比較の合計は高々5K回**。

表2: 勝率の小数の桁数を増やしたときの状況

勝率	作った分数の個数	試合数最小の答
0.56	5	5勝 4敗
0.567	8	17勝 13敗
0.5678	12	67勝 51敗
0.56789	20	435勝 331敗
0.567890	24	619勝 471敗

応用: MPEG-4 ALS (ロスレス・オーディオ符号化)

「分数のある性質」の発展版 (連分数, ファレイ数列の性質) を利用し, **情報を落とさず**にオーディオ信号を圧縮。
【参考】MP3は人間の聴覚心理 (周波数ごとの最小可聴値など) を利用し, **情報を落とす**ことによりオーディオ信号を圧縮。